

2021 年度（第 36 回）国立大学日本語教育研究協議会 情報交換「コロナ禍における日本語教育」

【分科会 2】

「オンラインモードの特性を活かした授業の企画と実施—対面なしのオンラインモードでこんな有効な日本語教育/日本語習得支援ができた！！—」報告

司会：小野正樹（筑波大学）

以下の項目について情報共有をおこなった。

(1) オンライン授業を行うにあたって便利なツールの紹介

- ・アプリ「Kahoot!」、「mmhmm」
- ・マイクミキサー

(2) 時差のある国の留学生への対応について、非同期の取り組みをどのように行っているか

〈実施例〉

- ・隔週でオンラインとオンデマンドを組み合わせ実施した。
- ・(1 週間の集中プログラムにおいて) 必ず受講しなければならない授業と、昼と夜選択制の授業とを組み合わせ実施した。

〈実施の際の問題点と留意点〉

- ・常勤だと授業時間を変更しやすいが、非常勤講師は難しい。
- ・非常勤講師への録画依頼は難しい。
- ・学生同士の Meet セッションでは学生全員に許可を得て録画した。
- ・教科書の問題が大きく、自分達で出版した教科書をリライトしたり、過去に作成した試作版を利用したりして対応した。
- ・国費留学生の場合は、奨学金の支給は来日後となるため、日本語学習のモチベーションの維持が難しく、日中に仕事をしている学生もいた。

(3) 学生同士の横のつながりでうまくいったこと

- ・学生のほうが教師より操作に慣れていて、グループで作業したり連絡をとりあったりしていた。
- ・グループワーク用に Google ドライブを作り、授業時間外も活動できるようにした。日本人学生とのグループワークを通じて日本語能力を伸ばせ、国境を越えて発表できた。

(4) 漢字の授業での取り組み例

- ・学生にいろいろな漢字の写真を撮ってきてもらい発表してもらった。
- ・学生がグループワークとして作成した漢字の四択クイズを Moodle に載せ復習用に使用した。

(5) コロナ後も続けたいオンライン機能

- ・オンラインのクイズやアンケート機能
…ベストアンサーで動画を作らせてどの人が一番よかったかを発表したりできる。
- ・Moodle での授業資料の提示や課題提出
- ・Google ドライブ…中国から受講している学生も使用できている。

最後に、ハイフレックス授業をどのように行っているかの情報がほしいという意見があった。

以上